

地球ギャラリー vol.21

Republic of South Africa

[南アフリカ共和国]

文・写真＝長川 貴博 (フォトグラファー)

ソウエトの素顔



とびきりの笑顔は、ソウエタン
(ソウエトの住民)の証し。子
どもたちは特に輝く。ソウエト、
オーランド・ウエストで



E

E. サッカーはここでの人気スポーツ。プロ選手はあこがれの職業だ。懸命に練習する子どもの中にははだしの子どもも
F. FIFAワールドカップ南アフリカ大会の決勝戦が行われるサッカーシティスタジアム

16年前という事実には驚く。南アフリカ大会の決勝戦は、そのアパルトヘイトの象徴的な存在として知られる最大の旧黒人居住区ソウェトに隣接するサッカー・シティスタジアム



F

アフリカ大陸初という栄誉を担って開催されるFIFAワールドカップ南アフリカ大会が迫っている。この国は、ダイヤモンドなど豊富な鉱物資源に恵まれ、アフリカでは屈指の経済大国だ。しかし、その歴史に刻まれた悲劇を忘れるわけにはいかない。1948年、本格的に着手されたアパルトヘイト（人種隔離政策）だ。人口の約7割を占める黒人の参政権や基本的人権を侵害し、白人のみを優遇する政策である。カラード（混血）やインド人も侵害の対象となった。人種に対する罪と非難されたアパルトヘイトが完全撤廃されたのは、46年後の94年。わずか

テイ・スタジアムで行われる。同国最大都市ヨハネスブルクの郊外にある。ソウェトを語る上で外せない場所がクリップタウンだ。アパルトヘイト圧制下の55年に、全人種参加の国づくりを全人種参加の集会で厳かに宣言した「自由憲章」が採択された地である。そこに立った時には目を疑った。見事に再開発され、ウォルター・シスル・スクエアと呼ばれるモダンな空間に変わらしていったからだ。これが現在のソウェトなのか。最新のショッピングセンター・マボニヤモールには、黒人の貧困のかけらも見いだせない。



A. フィラカジ通りより、ソウェトの象徴ツイン・タワー（旧発電所の冷却塔）を望む

B. ソウェトの議会と呼ばれるレジーナ・ムンディ教会。反アパルトヘイトの拠点でもあった



D. 日曜日のソウェトにはぎやか。キリスト教各宗派の教会でミサが始まる。説教師の話に思わず泣き出す人が出るほど熱狂的だ



C. 1955年に「自由憲章」が採択されたクリップタウンにあるウォルター・シスル・スクエア。フリーダム・スクエアとも呼ばれ、反アパルトヘイトの歴史が刻まれている



K.腕を交差させるのは、地元のサッカーチーム、オランダ・バイレーツの熱烈なファンの証し

地球ギャラリー vol.21

L.不法占拠住宅街、スクワッター・キャンプ。空き地を見つけ、トタンで家建て、友人や親戚を頼りに住みつく。ほかの旧タウンシップに比べ、恵まれているソウェトでの不法住宅は後を絶たないと指摘する人もいる



I.マンデラの壁画。ソウェトにはマンデラの住居もある

J.マセコ通りは、ビバリーヒルズと称される高級住宅地。子どもの身なりも良く、はだしはいない



豪邸とトタン屋根が地区を隔てて存在するソウェト。所得格差の是正や失業率の改善、インフラの充実と課題は多い。歴史的な転換を経た国民は、アイデンティティーの欠如に悩むともいわれる。だが、ソウェタンたちはこの地を愛している。富める者も貧しき者も愛着と誇りを抱いている。ソウェトの素顔には、新生南アフリカ発展の光を見た気がした。



G.無認可酒場(シェバーン)。いわゆるもぐり営業だが、ソウェトの人々にとって欠かせない社交場でもある



H.ムジンシユロへの典型的な住居(ホステル型長屋)。3畳ほどの部屋が2つあり、1部屋に4人が身を寄せせることも。水道や下水もなく、シャワーとトイレは屋外。はだしの子が多い

ソウェトは82平方キロの広さを持ち、人口は86万人とも300万人ともいわれる。むろん、再開発が及んでいる地域は限られている。その上、富裕層と貧困層の分極化が進む。民主化後、政府は福祉重視の「復興開発計画(RDP)」から経済重視の「市場重視政策(GEAR)」へと転換し、2004年からは「黒人経済力増強政策(BEE)」の公布によって、黒人の間に所得格差が広がっている。

オリランド・ウエスト地区にあるフライカジ通りやマセコ通りは、ビバリーヒルズと称されるほど見事な豪邸が並ぶ。片や同地区の一角にあるムジンシユロには、解放後のマンデラが自身の投獄前と同じだと嘆いた、赤土の道に並ぶブリキの家屋や、電気も水道もない粗末な長屋が連なっている。この辺りには、アパルトヘイト時代に地方からの単身赴任者の受け皿となったホステル型住居が多い。窮屈な上、下水やトイレに難儀する泥道の町は、国内の他の多くの旧黒人居住区と変わらないのだろう。

民主化後の政府は、RDPで住宅問題の解消を掲げた。人並みの住環境をと、政府が進めるアパルト建設は、ムジンシユロではストライキで中断していた。所得格差の不満の中、報酬や待遇の改善を要求する労働者は強気だ。



スワジランドで行われたHIV/エイズ対策プログラムのモニタリング・評価の能力強化研修で、意見交換する参加者たち



ツワネ工科大学でプラント工学について講演する日立製作所の社員

日産自動車とツワネ工科大学の協働で実施された生産性の研修に参加した学生



JICAの活動 in 南アフリカ共和国

国内産業を支える人づくりを

高失業率、人種間の貧富の差、HIV/エイズのまん延などにより、国の経済活動を担う人材が不足する南アフリカ共和国。JICAは、同国政府とともに、格差の是正、産業界が求める人材の育成などに取り組んでいる。

アフリカで最も経済水準が高く、近年は域内諸国や先進国とパートナーシップを結び、アフリカの発展をけん引する南アフリカ共和国。しかし、2008年の経済成長率は前年の5.1%から3.1%へと後退。1994年まで続いた人種隔離政策「アパルトヘイト」は黒人やアジア人などを差別したため、人種間の経済力と基礎学力の格差は大きく、国内産業を担う人材も育っていない。

こうした中、同国政府は2014年までに23%という高い失業率(特に若年層)を減らし、失業者数と貧困層の半減、経済成長率を年平均6%に引き上げる方針を掲げ、主に「人材育成」を重視した政策を展開。これを後

押しするためJICAは、一方通行型ではなく、共に課題に取り組むパートナーとして、目標の達成に努めている。

失業率の改善に対しては、産業界が求める理工系人材の育成に向け産官学協働方式を提唱。黒人学生が多いツワネ工科大学をモデルにした研修事業を展開している。ここではトヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、(株)日立製作所といったグローバルに展開する日本企業の協力により、生産性向上や経営管理ノウハウなどの実践的な知識と技術が伝えられ、産業界のニーズの理解が深められている。

また、南アフリカはHIV感染率も高く、感染者数は約580万人と一国の感染者数としては世界最多。この大き

な課題の解決に向けJICAは、南アフリカを含む感染率が高い南部アフリカ地域5カ国(ボツワナ、スワジランド、ナミビア、レソト、南アフリカ)のHIV/エイズ対策者を対象に、対策プログラムをより効率的に計画・実行するためのモニタリング・評価能力強化を図る研修を実施。また、各国の事情に合わせた改善策のアドバイスなども行っている。

■JICAの協力実績(技術協力の受入・派遣) 2009年3月31日現在

	2008年	累計
研修員受入	49人	1,100人
専門家派遣	25人	211人
青年海外協力隊	5人	56人
シニア海外ボランティア	1人	1人

事務所開設 1997年



金やダイヤモンド、石炭などの鉱物資源が豊富。また、パソコンや携帯電話などに不可欠なレアメタルも多く産出される。



民族融和を進め、アパルトヘイト撤廃へと導いた元大統領ネルソン・マンデラ。ノーベル平和賞など数々の賞を受賞した。



首都：プレトリア
面積：122万km²(日本の約3.2倍)
人口：4,790万人(2007年)
公用語：英語、アフリカーンス語、バンツール語など合計11言語
宗教：キリスト教約80%、その他ヒンズー教、イスラム教
1人当たり国民総所得(GNI)：5,726ドル(07年)
経路：直行便はなく、ヨーロッパやアジア、中東経由が一般的なルート。
通貨：ランド(ZAR) 1ZAR=約12.2円(2010年5月現在)
気候：南半球に位置するため、季節は日本と逆。10月~3月が夏、5月~8月が冬。



300年以上も前からワインが造られており、南西部のケープ地方は世界的にも有名な産地。



ラグビーが盛ん。ラグビー・ワールドカップでは、1995年と2007年に優勝を果たしている。



Golden Lion Pub & Grill
〒106-0032 東京都港区六本木5-18-1
PURE六本木 4F
TEL: 03-3584-9096
17時~翌朝5時
定休日：無休

1. オープンを200度で予熱しておく。タマネギをみじん切りにし、ひき肉と一緒にバターでいためる。カレー粉、砂糖、ターメリック、つぶしたニンニク、おろしショウガを加えて混ぜる。
 2. 食パンを細かくちぎり牛乳に浸しておく。
 3. 1と2に塩、レモン汁、レーズン、コショウ、アプリコットジャムを加えよく混ぜ、グラタン皿に敷き詰め、ローリエを乗せる。
 4. 卵と残りの牛乳を泡立て器でよく混ぜ、3の上にかけて、オーブンで20~25分焼く。
- ☆ライス(タイ米)と一緒にとろろ。

【材料(4人前)】
タマネギ半個 / バター10g / カレー粉小さじ2 / 砂糖小さじ1 / タメリック小さじ3分の2 / ニンニク2分の1片 / おろしショウガ小さじ2分の1 / 牛乳100ml / 牛ひき肉300g / 塩小さじ2分の1 / レモン汁小さじ2分の1 / レーズン20粒 / コショウ少々 / ローリエ1枚 / 卵1個 / アプリコットジャム大さじ2 / 食パン1枚

【作り方】
1. オープンを200度で予熱しておく。タマネギをみじん切りにし、ひき肉と一緒にバターでいためる。カレー粉、砂糖、ターメリック、つぶしたニンニク、おろしショウガを加えて混ぜる。

「虹の国」と称されるほど、多様な言語と人種から成る南アフリカ共和国。食文化においても、先住民と植民地時代に移住してきた西ヨーロッパ系移民の故郷の味が混合し、バラエティー豊かな。中でも「ケープカレー料理」は、オランダ人入植者の食文化が根付いたインドネシア人の料理が南部ケープ地方から全国へと広まり、この国を代表する郷土料理の一つとなった。カレー味にレーズンの甘みが効いているのが特徴だ。

南アフリカ共和国料理 カレー風味のグラタン「ボボテイ」

